

## 1. アメリカでの経験や感想

今回の研修では非常に多くのことを体験したが、その中でまず印象に残っていることはアメリカの大学の学びの自由である。この自由は様々な面に表れていた。例えば、彼らの専攻の面である。アメリカの学生の話聞いてみると、彼らは学部が決まっているわけではなく自分の学びたいことを自由に決めて、後に専攻を決めていくスタイルである。その中で **double major** つまり専攻を二つにすることもできる。僕自身このシステムの自由さにかなり魅力を感じた。僕は学んでみて初めて、その分野に本当に興味があるのかがわかると考えているからだ。またほかにも自由な面はある。それは授業が少人数体制であることだ。教師と学生との距離が近いことから、生徒はより自由に教師と関われ、質問もできる。したがって多くのことをより学べる。このようにアメリカの学びは非常に自由で魅力的であった。

ほかにも印象に残っていることがある。それはアメリカの学生の積極性である。彼らは様々な面で積極的であった。まずは授業である。彼らはよく手を挙げて発言する。日本の大学生にはあまり見られないことである。自分の考えをしっかりと相手に伝えようとする。その発言がしっかりと的を得たものでなくても、周囲の人がしっかりと飲み込みまた一歩進んだ話へとともに進めていく。教師からの一方的な情報伝達ではない授業参加の積極性が見られた。積極的なのは授業だけではなく。彼らはコミュニケーションに関しても非常に積極的であった。僕らが大学で昼食をとっていると彼らが話しかけてきてくれることが何度もあった。またグループでのディスカッションでも彼らは積極的にコミュニケーションをとってきてくれた。日本人はこういった積極性が非常に乏しいので見習うべき点であると実感した。

## 2. 今後の決意

今回の研修を通して、僕は非常に触発された。自分の英語力のなさ、アメリカの学生の勉強に対する積極性、アメリカの自由度の高さなどを自分の肌でしっかり体験した。そこでやはり留学しようと思った。アメリカの学びを体験し、日本に還元したい。また自分の英語力を磨き、より広い視野で世界を見て自分の可能性を広げたいと感じた。

今回実際にエバーグリーン州立大学に行ってそこでの学びにとっても魅力を感じたので交換留学にチャレンジする。そのために今年の11月に TOEFL IBT を受験し79点を超えられるように6か月間の計画を立て実行する。当面の目標としてはこの交換留学である。

そして、まだ漠然とはしているが将来海外の企業で働くことも視野に入れて今後やりたいことを見つけていく。また今、専攻している経済学だけでなく経営学、教育学にも興味があるのでこれらも学ぶことのできる場所を英語の壁を乗り越えて海外規模で探していきたい。